

評価基準の選定

-Selecting Evaluation Criteria-

1.はじめに

AHP 法でネクタイを評価する際、ネクタイの印象を表現するのに適した形容詞を選定する必要がある。今回は形容詞の選定作業を予備実験として行ったので、その報告をする。予備実験は SD 法によるアンケートを行った。

2.アンケートの概要

予備実験では表 1 に示す 20 個の形容詞対を用いた。これらの形容詞対はネクタイに関する雑誌の記事や、オンラインショップの商品の紹介文を参考に抽出した。予備実験では 10 種類のネクタイ画像を用いた。

実験を開始する前にアンケートに関する注意事項を教示した(図 1)。次に、10 種類のネクタイについて図 2 のようなアンケートに回答してもらった。提示する画像の順序による影響を少なくするために、ネクタイの画像は被験者ごとに異なった順序で提示した。被験者は 20 代男性 10 名とした。

3.因子分析による形容詞対の選定

ネクタイに関する印象評価実験を行い、そのアンケート結果について因子分析を行った。まず、SD 法によるアンケート結果を 1~5 の数値に正規化してエクセルで集計をとった。次にそれを SPSS 株式会社製の統計ソフト「PASW Statistics 18」を用いて因子分析を行った。ソフトの使用方法に関しては参考文献[1]を参考にした。

1 回目の因子分析の結果を表 2 に示す。因子負荷量は、各形容詞と各因子の相関係数を表し、一般的に絶対値が 0.7 以上を示す形容詞はその因子と強い相関があると考えられる。今回は絶対値が 0.5 以上を示す形容詞対を選定し、絶対値 0.5 以上の値を持たない形容詞対を取り除き、繰り返し因子分析を行った。1 回目の因子分析で「アクティブな-アクティブでない」「若々しい-若々しくない」を、

2 回目の因子分析で「派手な-地味な」「かわいい-かわいくない」の 4 個の形容詞対を削除した。選定した結果を表 3 に示す。今回の因子分析では因子数を 3 とした。AHP で使用する評価基準は 3 つの因子とそれぞれ関連の強い形容詞対を 2 つずつ選定して使用することにする。よって AHP で使用する形容詞対は以下のように定めた。

- 1) 美しい-美しくない
- 2) 魅力的な-魅力的でない
- 3) 個性的な-個性的でない
- 4) 落ち着いた-落ち着いてない
- 5) 温かい-冷たい
- 6) 明るい-暗い

4.おわりに

今回は AHP で使用する形容詞対の選定を行った。中間発表ではここまでの予備実験について発表する予定である。

今後の予定としては、今回選定した評価基準ごとの代替案の評価値をアンケートによって求める予定である。星野先生の授業時間をお借りしてアンケートを取らせていただきたいので、早めに準備を整え、スケジュール調整もしっかりとしていきたい。

